

高山祭りミュージアム(Takayama Art Museum, 岐阜県, 日本)

(1) 高山祭りミュージアムの計画

高山祭りミュージアムは、日本列島のほぼ中央に位置する岐阜県高山市に建設された岩盤地下空洞を利用した国内初の本格的な地下式美術館である。高山市は、京都の祇園祭りや秩父の夜祭りとともに"日本三大美祭り"の一つとして知られている高山祭りでも有名な町である。古き日本の静けさと素朴さや現代にまで脈々と伝えられてきた伝統工芸品にかかわる飛騨の匠の技と心と、それを大切に保存している町の人々の心意気。こうした過去の文化や伝統を継承しながらも更に磨き上げている平成の世に生きる匠たちの技と高山の文化を将来に残すことを目的にして、平成屋台や御輿(写真-17)や屏風や大太鼓などの美術工芸品を製作し始めた。これらの屋台は、高山の職人が中心になって、織物は京都の西陣、塗りの一部は輪島、彫刻は富山の井波、織物は高岡と全国の匠たちに協力を仰いで創り上げている。これらの平成屋台を中心とする工芸品を収める展示館を、高山の美しい自然や景観などの保全を心掛けた建物にできる限りしたいという考えから、岩盤空間を利用した地下式美術館が計画された(写真-18、写真-19)。本ミュージアムは、図-1のように地表部の管理施設、地表から水平に入る70mのトンネル状の展示空間(以後、展示トンネル部と呼ぶ)、直径40.5mの半球状の展示空間(以後、展示ドーム部と呼ぶ)および周辺の避難坑からなっている。



写真-17 (b) 展示されている御輿



写真-17 (a) 展示されている平成屋台



写真-19 展示トンネル部(入口付近)

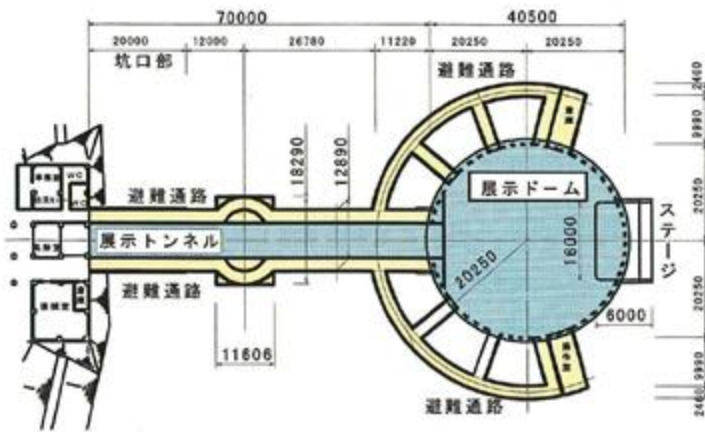
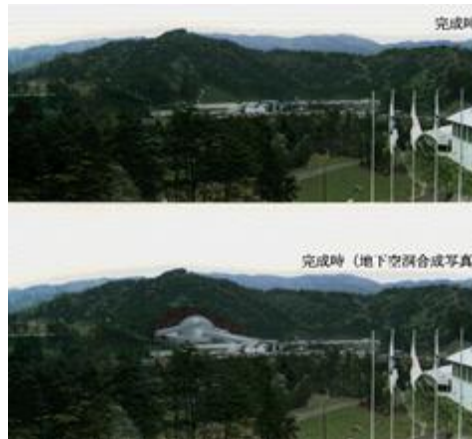


写真-18 地下式ミュージアムの景観図

図-1 地下式ミュージアムの平面図

(2) 地下空間利用の利点

展示を予定している屋台は、脈々と引き継がれてきた飛騨の巧みの技と現在の技を結集して平成の世に相応しい巧みの技を創り出そうとするために計画されたものである。そして、展示する空間も現在の新しい建設技術の粋を結集して、展示物の美しさを引き出すような展示空間を造ることが求められた。

1) 岩盤空間の持つ威圧感と演出し易い遮蔽空間

春祭りと秋祭りに高山の町を曳き回される従来の屋台は、日本の三大美祭りの一つにも数えられるほどの美しいものである。流れる風の爽やかな自然の季節の美しい時期に、足の踏み場もないほどの大勢の人が集まり、勇み調子の祭り囃子が流れる中を、十数台の豪華な屋台が市中をゆっくり曳き回される。夜ともなると屋台の高欄は提灯で飾られ、いっそう艶やかに闇の中に揺れ浮かぶ。美しい自然、大勢の人が肩をぶつけながら行き交う、祭り囃子、周りの人が上げる歓声、曳かれる屋台の軋む音など、祭りとしては最高潮に盛

り上がる。こうした少し騒がし過ぎる環境にありながらも、参加者が感じることの出来る屋台の美しさは素晴らしいものである。

一方、人は、狭く暗い地下空間に入った時には無意識のうちに恐怖心と緊張感に襲われ、人の五感は極端に研ぎ澄まされ、自分の持てる感性を最大限に高めことになる。このとき、遠くの方に何か明るく輝くものを見つけると、自らの感性はその一点に集中することになる。一步一步足を進めると、輝く小さなものが次第に広がる平成の屋台、鮮やかな高覧の飾り、艶やかに磨き上げられた塗りの輝き、煌めく金物の細かい細工、間近で見る一刀彫りの精巧さ。このとき、目の前の屋台だけが頭の中に広がり、そのきらびやかな美しさを堪能することができるようになる。こうした空間の演出には、岩盤地下空間が適した環境を与えることになる。もし、そのまま野外に出て、緑の美しい山裾を背景に日の光の下でその同じ屋台を見直すと、空洞内部とはかなり違ったものに見えることになる。確かに美しい。しかし、先ほど感じていた屋台の美しさは、何処に行ったかという気にさえなる。

2)自然に優しい建設物

緑豊かな山間の静かな町である高山市は山間部でありながらも盆地地形の町であり、川沿いの平地に沿って発展してきたが、平地部が狭いため、新規に大規模な建築施設を建設する場合には、周辺の山間部の土地造成が必要となる。高山祭りミュージアムの建設地点は、JR 高山駅の南 2.5km に位置する、苔川(すのりかわ)と阿矢省川に挟まれた標高 720m の尾根地形である。このため、土地の造成土量を少なくすると階段の多い、多層階の建物となり、屋台の曳き出しや人の移動が容易な平面空間の少ない建物となる。これを解決するために、このミュージアムの建設は、地上から水平にトンネルを掘り、地質の良いところで大断面に切り抜けることによって平面空間の確保に努めた。また、写真-18 のように建物の主体となる屋台の展示空間を全て山の中に入れることとしたため、周辺地山の掘削は極力抑えられ、自然に優しい建物になった。また、掘削された岩石の大部分は、坑口前の土地造成に活用され、有効的な平面地形の確保に繋げることが出来た。その後、この平面的な土地が確保された入り口部に、レストラン、お土産屋、茶器の展示館、昆虫館、駐車場などの施設を構築することとなった。